

平成 26 年度 『四季の郷短期入所』 事業報告書

1. 短期入所

①受け入れ実績

平成 26 年度の受け入れ実績は以下の通りである。

月	男 (のべ日数/実人数)						月計
	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	
4			47/3	10/2	38/6		95/11
5			54/3	28/6	74/7	2/1	158/17
6		4/1	20/2	35/7	62/5		121/15
7			51/3	27/5	78/7	2/1	158/16
8			53/3	34/6	66/6	2/1	155/16
9			52/3	25/4	69/7	2/1	148/15
10		3/1	54/3	25/4	77/7	2/1	161/16
11		8/1	52/3	26/4	62/5	2/1	150/14
12		4/1	49/3	23/4	71/7	2/1	149/16
1		2/1	44/3	24/4	60/4		130/12
2		1/1	48/3	10/3	82/7	2/1	143/15
3		3/1	53/3	10/3	75/7		141/14
区分別日数計	0日 0人	25日 7人	577日 35人	277日 52人	814日 75人	16日 8人	1709日 177人
合計年度比較	平成 26 年度 のべ 1,709 日 / 177 人 平成 25 年度 のべ 1,722 日 / 202 人						

月	女 (のべ日数/実人数)						月計
	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	
4			2/1	2/1			4/2
5			4/1	6/2			10/3
6		4/1	10/2	4/2	4/1		22/6
7			34/2	4/2			38/4
8			31/1	12/2			43/3
9			4/1	34/2			38/3
10			3/2	20/3	3/1		26/6
11			4/1	33/3	2/1		39/5

12				33/4			33/4
1				21/2			21/2
2				43/3	3/1		46/4
3				27/3			27/3
区分 別日 数計	0日 0人	4日 1人	92日 11人	239日 29人	12日 4人	0日 0人	347日 45人
合計 年度 比較	<p style="text-align: center;">平成26年度 のべ347日/45人 平成25年度 のべ280日/31人</p>						
総括	<p>●合計数：平成26年度 のべ2,056日/222人 平成25年度 のべ2,002日/233人 (日数25年度比1.26倍) (のべ人数25年度比0.95倍)</p> <p>●一日平均利用者数：5.6人 <定員8名> 年間稼働率 70.4% (25年度68.5%)</p> <p>●利用総日数での男性利用者の割合：83.1% (24年度86.0%)</p>						

②受け入れの状況

今年度受け入れについては、以下のような特徴・傾向が見られた。

- (1) 若干ではあるが、のべ利用者人数が増加したにも関わらずのべ利用人数が減少したこと

今年度についても利用希望者すべてに利用受け入れができたわけではなく、性別や障害の程度、性格、相性、緊急度等によって利用調整を行ってきたため、利用状況が単純に短期入所をめぐる社会的な状況とは言えないが、明らかに、1人の利用期間の長期化傾向が見られた。

このことは、親の高齢化や不在状況（いわゆる“親亡き後の問題”）より深刻化していることをうかがわせる状況であった。利用が数ヶ月から年単位になる見通しの利用希望者は、他の複数の事業所を交互に利用せざるを得ない状況であるため、今年度の利用相談や利用希望は市内の障害者相談支援事業所経由でなされることも多かった。

また、前年度と比較すると、区分3や区分4の利用者は減少傾向であったが、区分5の利用者の増加が見られた。男性利用者の多くに、比較的強いこだわりや執着状況が見られる自閉症の利用者が多く、家庭での世話や関わりがより困難になっている状況もうかがわれた。実際、四季の郷内での利用者同士のトラブル発生の原因の1つに短期入所利用者のこだわりや執着にあることも見られた。2人部屋や大食堂、大浴場等の生活単位が広くて大きい施設環境の限界や支援員の専門性の向上の必要性を強く感じることも少なくなかった。

- (2) 女性利用者の増加傾向が見られたこと

特に長期利用希望での受け入れが目立っていた。このことも、前述の“親亡き後の問題”の深刻化をうかがわせるものであった。

- (3) 新規利用者の受け入れが前年度より増加したこと

利用の長期化傾向も見られた一方で、他法人の入所型施設やグループホーム入居が決まり短期入所の利用がなくなる場合も昨年よりは増加した様子もあり、いわゆる地域生活の環境づくりがわずかずつ進んでいる様子もうかがわれた。

その分、新規利用者受け入れが増加した。

③生活支援

今年度も、新規利用希望者については、必ず面談を行い、日帰り利用や一泊試行利用等から利用者に無理にならないよう配慮しながら受け入れを行った。相談支援事業者や精神科病院からの依頼については、必ず本人・ご家族はじめ関係者を交えたケア会議・調整会議等を行った。

支援体制面では、日常支援は棟単位の同性職員での関わりを継続してきた。課業活動支援についても、他の入所利用者同様に課業活動参加等の誘いかけも行ってきたが、日中を通し落ち着く場所となるべく過ごしてもらったり、音楽を聞くなどの好きなことが行える機会を提供するなど、個別に過ごしてもらおう状況も多く見られた。

2. 日中一時支援事業

①受け入れ実績

平成 25 年度の受け入れ実績は以下の通りである。

月	浜松市 (実人数・のべ時間)		磐田市 (実人数・のべ時間)	
	男	女	男	女
4	4 人・199 時間	5 人・249 時間		
5	5・202	6・186		
6	4・142	5・228		
7	4・160	5・250		
8	4・180	4・164		
9	4・160	4・223		
10	3・164	4・233		
11	3・171	4・181		
12	4・157	6・238		
1	4・86	5・145		
2	4・150	5・197		
3	4・188	4・230		
計	47 人 1959 時間	56 人 2524 時間	0 人 0 時間	0 人 0 時間
	4, 4 8 3 時間 (平成 25 年度 4, 157 時間) ◎25 年度比 人数 男性 0.8 倍／女性 1.0 倍 時間数 男性 1.0 倍／女性 1.1 倍			

②受け入れの状況

今年度も、市町の地域生活支援事業の一つとして、浜松市と磐田市の2つの市町と委託契約を締結し事業を実施したが、磐田市からの利用は一件も見られなかった。これは、磐田市内でも一定の受け入れができる事業所が見られるようになったためだと思われる。

利用状況を見ると、そのほとんどが法人内日中活動系事業所の利用者で、日中事業の利用終了後からお迎えができる家族の仕事が終わるまでの間の利用と、日中活動がない土・日、

祝日の利用であった。平日の活動後の時間帯利用では、家族が四季の郷間の送迎の対応ができないため、各日中活動事業所による送迎の元利用していた。

中には迎えが 19 時を過ぎる利用者も見られ、夕食の提供も行ってきた。四季の郷の入所利用者や短期入所利用者の介護度の高まりと相まって、安定的な支援体制の維持に困難な状態が見られていることが前年度に引き続き見られていた。